



岡田理子 蠟燭のある静物 F10 (水彩)

<作者コメント>

グレーの紙にピーコック色での着彩です。キャンドルの金属感、ガラスの透明感が出せていれば嬉しいです。

<喜田コメント>

岡田さんは多様な才能を併せ持っていますね。今までの作品を見比べてみるとその多様さが良くわかります。今月の作品はその中でも際立っていると思います。

グレーの用紙にプルーシアンとホワイトを使って（ピーコック色ですか？）硬質感を出したのが今月の作品ですね。作者コメントに記載された、「銀製の燭台の金属感、ガラスの透明感」はいずれも十分に出ていて申し分ありません。花を挿した金属製の壺の表現も上手いですね。重量感が良く出ています。どのようにしてこんなにうまく描けるのか教えてほしいです。構図的には斜めに傾いた一本の花が全ての構図的調和を解決したと思います。この花がなければ構図的に問題ありです。

このピーコック色を使って「花・林檎・ろうそく」を如何に表現するかが課題だと思います。白い花と白い蠟燭は良いと思いますが、傾いた花と林檎の表現が固すぎると思います。3本の蠟燭の影と不明瞭な影が作品を柔らかくしていると言え言えますが・・・。



遠矢慶子 テーブル一杯の静物 F8 (水彩)

<作者コメント>

<喜田コメント>

タイトルのごとく、本当にいろいろな沢山の物がテーブル狭しと乗っていますね。しかし、構図的にはきれいに収まっています。主役は大きなガラスの花器に投げ入れた草花ですね。「赤い唐辛子の束と柘榴」、「黄色いホーローの水差しと3輪の花」が不思議な響きを与えていて素敵です。

右手前の不明瞭な物・テーブル上の不思議な影・ガラスの花器と草花に中に薄っすらと置かれた青・背景の横線と紫の影、は画面全体の調子を整えるために描かれたと思います。よく描かれていて、指摘事項はありません。



武智康子 東洋に百合（セレーナ） F6（水彩）

<作者コメント>

花屋で出会ったこの花は、別名を『東洋の百合』と言われるセレーナと言う大きな百合です。その気品に魅せられて描きました。黄色の大きな百合なので、花が浮き出るように、背景は、グレーとオレンジとグリーンで淡く描いてみました。一応花瓶にさしているのですが、花を強調するために花瓶は省きました。構図的にどうでしょうか。

<喜田コメント>

優しい色彩で描き上げていて、「東洋の百合」への作者の気持ちがにじみ出ている良い作品だと思います。お尋ねの構図ですが、花瓶を描かなかったことは問題ありません。意思が明確で良いと思います。百合の花の配置も中心に大きな一輪を置き申し分ありません。2点指摘させていただきます。(1) 絵の重心がごくわずかですが下方にずれたと思います。この原因は全体が下に底辺を持つ2等辺三角形になっているからです。(2) 主人公の黄色い百合にもっと語らせていただきたいと思います。そのためには百合を浮き立たせない・・・。背景の工夫で(1)(2)を解決することが出来ると思います。サロンで議論しましょう。



黒田重雄 扇沢—紅葉と初雪— F8 (水彩)

<作者コメント>

黒部アルペンルート入り口「扇沢」から観た秋景です。もう晩秋の頃、遠く山に積もった新雪と紅葉に染まった近景のコントラストが鮮やかでした。白く輝く木々の幹が繊細な情景となっていました。

<喜田コメント>

今月の作品もとても良いですね。
山の稜線が左右から順序良く相互に重なり合っていて、形状的な面白さがあります。
メインの手前の紅葉と遠方の山の初雪は作者が感動した通り、響き合って素晴らしいです。
黒田さんの作品には「黒田イズム」が出来上がりつつあると思います。これが個性というものです。此のままどんどん描いてください。
私にはこんなに細かく描写することが出来ません。私にはそういう能力がありません。



筒井隆一 一升徳利 F4 (水彩)

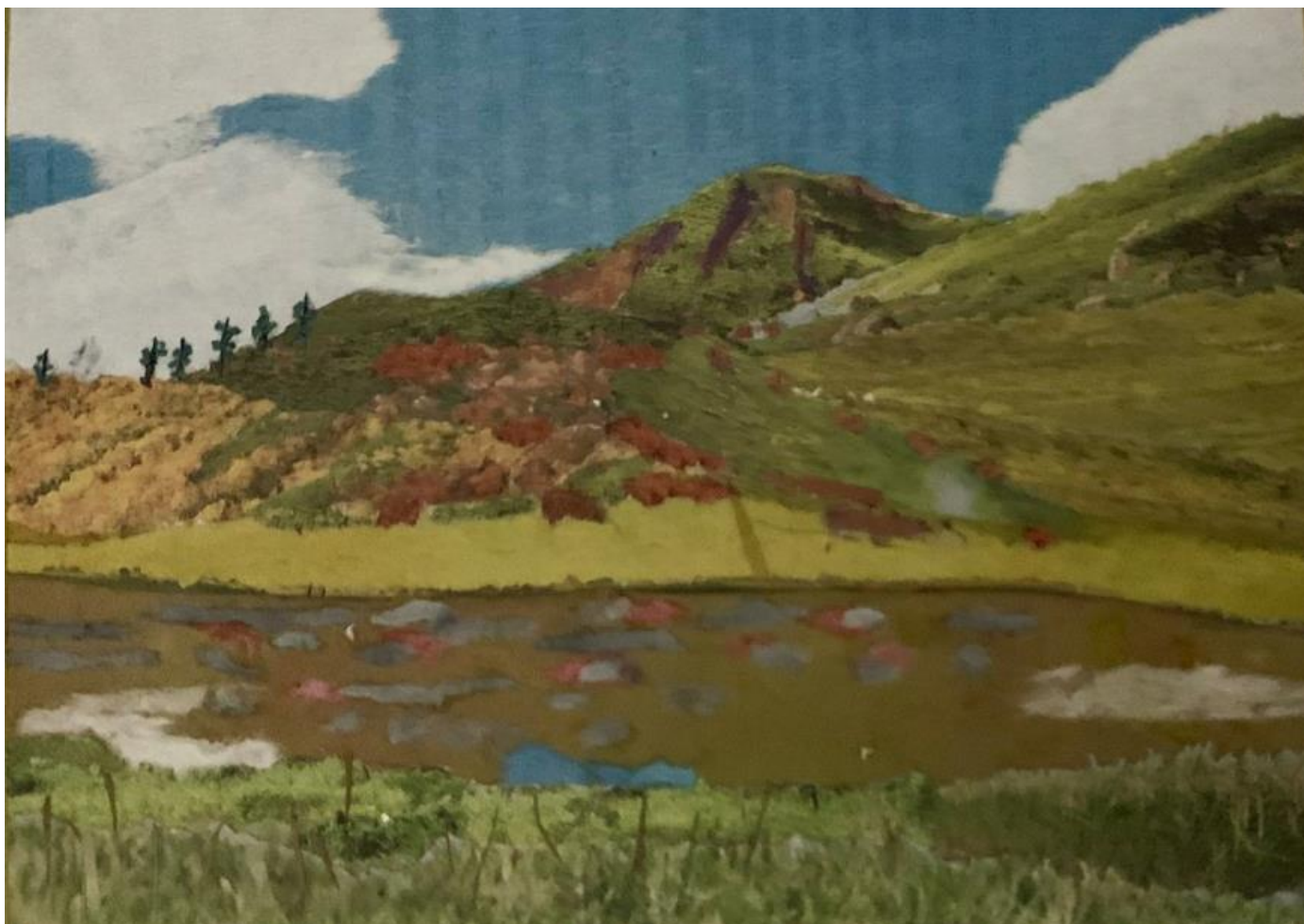
<作者コメント>

酒豪の友と、日本酒を酌み交わした大徳利が出てきた。よくこんなにデカイ徳利で、飲んでいたものだ。若かったんだな……………。

<喜田コメント>

またまた、筒井さんの個性たっぷりの良い作品になりましたね。柔らかい光を反射している大徳利の表現が最高です。白釉陶器の大徳利の表面に書かれた「三嶋屋」の文字もよく描けています。手前からブルー、イエロー、ブラウンのリズムを持たせたような机と背景の表現に感心してしまいました。大徳利を置いた青い布の襞があたかも山脈のようです。黄色い布の模様は童謡を歌っているような面白さがあります。背景の茶色と3者で面白い関係を作ったと思います。大徳利に一輪の花を挿したのも素晴らしいです。

私もこんな絵を描いてみたい、と強烈に思いました。筒井さんは創作力がありますね。2個の柘榴も面白いと思います。今までの作品の中で秀逸です。



月川りき江 火打山—天狗の庭湿原— 20cmx15 cm (ちぎり絵)

<作者コメント>

デイサービスの壁にたくさんのポスターが貼ってあるので、その中の好きな一枚を借りて、ちぎり絵にしました。

<喜田コメント>

新潟県妙高市にあるこの天狗の庭湿原は紅葉と高山植物で有名な北の名勝ですね。この作品、秋の火打山・天狗の庭湿原ですが、見ての第一印象は「色彩がとてもよい」と感じたことでした。同じ「緑」でも本当に多様な緑が使われています。感心します。次に、造形的に一番面白いと思ったのが、雲の形、空の青の形です。そして、これら強い造形をしっかり支える、火打山と湿原の形もすごく良いと思います。全体が非常にバランスよく収まった構図なのです。私の経験から言えば、良い構図の作品は作業をすればするだけ良くなっていきます。

月川さんの作品の特徴は豊かな色彩ですが、紅葉した火打山と湿原の複雑な色彩に対して、空の部分は「白い雲と青い空」の面白い形を活かして、非常に単純化した色彩表現です。これも一つのチャレンジだと思います。

ひとつだけ残念なことは、火打山を池に映しこまなかったことです。作品では池は濁った水面に紅葉や雲や空の一部が映ってはいますが、晩秋の紅葉の季節の池にはもっときれいな雲や空の映り込みが欲しいところです。以前、井上さんの原作を借りて、月川さんが制作された「草紅葉の尾瀬」で池に映りこんだ美しくて面白い空や雲のように。



竹前義博 田舎の秋 F6 (水彩)

<作者コメント>

街の中で絵にする風景を探しましたが、なかなか見つからず。田舎の風景を、写真を見て描きました。構図は写真からですが、色付けは、想像・創作です。燃える様な紅葉を思い出しながら描きました。

<喜田コメント>

すごく良い作品が出来ましたね。今迄の竹前さんにはなかった試みをして、全て成功したようです。感心したのは

(1) 遠く左にカーブして伸びていく道路の遠近感の表現法、(2) 遠くの牧場に放牧されている羊の群れが上手に面白く描かれていること (3) 空の表現は滲みを使って、縦方向に滲みで描いたこと (4) 空・山・牧場・紅葉・遠くの家々、畑に咲く花、など色彩が豊かな事です。良い作品に仕上がったと思います。

ひとつ注文を付ければ、

① 道路の両サイドの田んぼがフラットになっていません。その理由は段差の表現が実際より極端になったためでしょう。(2) これだけでも十分と言えます十分なのですが、欲を言えば、添景人物や添景農具などを近景に入れればもっと作品に幅が出ます。



若林哲史 白い恋人パーク F6 (水彩)

<作者コメント>

赤い二階建てバス、ノスタルジック溢れていました。札幌ビール工場のついでにお菓子工場を見学。其処にあったミニパークです。バスを背景にした記念写真に、すこし点描素材を加えました。バスに光沢を加えるのにエネルギーの80%を使った感じです。

<喜田コメント>

確かにバスの光沢がとても見事に描かれています。80%のエネルギーを使って描いただけのことはあります。

若林さんの作品は描写に狂いがなく、正確に描かれています。構図的には狂いがなく正確に描いて、肝心のところは詳細に、そして敢えて省略するところは思い切って省略して描く、というのが良い描きかただと思います。

この作品で言えば、バス、右側の菓子工場の建物、人物などを詳細に正確に描き、遠方の風景や建物などは省略しておおざっぱに描くということです。

私が特に感心したのは人物の描きかたです。バスの横に紙袋を下げて立っている人物、後ろ向きのアベック、とても上手です。何を考えているのか・何を話しているのか、聴こえてくるようです。若林さんは「安野光雅」のような作品（風景画）を描くと良いと思います。



井上清彦 雪の白川郷 F6 (水彩)

<作者コメント>

3年前の2月訪れた白川郷、この時は雪が少なかった。雪はうまく表現できたかがポイントです。色を塗らない方式を採用。少し影を入れるか思案中。

<喜田コメント>

「雪の白川郷」の作品、白川郷にも春がそこまで来ているのですね。雪深い郷に住む人々にとって春は待ち焦がれた希望の時なのでしょうね。子供たちが外で遊んでいる姿がそれを感じさせます。

山は雪解けが始まり、春が見え隠れしています。この作品は雪国の人々の生活が感じられるところが良いですね。心和む作品です。特に井上さんの描き方にぴったりの作品です。

もっと時間をかけて、丁寧に描けば、もっともっとよい絵になると思います。

今回、井上さんは締め切り日の夕方から描き始めて、深夜11時59分にメールで送付いただきました。奥様の言うように「この絵は一夜漬けの作品で描き足りません」。もっとねちねちとしつこく描いてゆくと、どんどん良くなる絵です。

特に遠景・中景(雪の里)・近景をメリハリをつけて描いてみてください。

タイトルは「雪の白川郷」より「春待つ白川郷」の方が作品にぴったりしますね。



喜田祐三 シンガポールの古い港 F15 (油彩)

<作者コメント>

私は1997年にシンガポールで第2回目の個展をしました。40点の油彩画を陳列しました。その時の作品は手元には1枚も残っていませんが、最近、その40点を「今の自分の力量で描き直したい」と考えるようになりました。

先月までは「私の住む町」シリーズを描きましたが、それは10点で終了です。

次は「思い出のシンガポール」シリーズにしようと思います。作品はすべて今、新たに描き直しているものです。

この作品はシンガポール島の西部のジュロンという地区にある古い港です。

以上